

# 19th International Mass Spectrometry Conference

## 第19回国際質量分析会議



### 1. 会議の名称

和文名： 第19回国際質量分析会議  
英文名： 19th International Mass Spectrometry Conference  
略称： IMSC2012

### 2. 開催期日

2012年9月15日(土)から9月21日(金)

### 3. 開催場所

国立京都国際会館  
(京都府京都市左京区岩倉大鷲町422番地)

### 4. 主催団体など

#### (1) 主催

日本質量分析学会、日本学術会議

#### (2) 協賛・後援(予定)

日本化学会、日本分析化学会、日本生化学会、日本農芸化学会、日本地球化学会、日本薬物動態学会、日本食品衛生学会、日本電気泳動学会、日本原子力学会、日本医用マススペクトル学会、高分子学会、プラズマ・核融合学会、応用物理学会、原子衝突研究協会、日本環境化学会、日本金属学会、日本表面化学会、日本セラミックス協会、日本熱測定学会、クロマトグラフィー科学会、

日本分光学会、日本真空協会、日本生物工学会、日本ヒトプロテオーム機構

(3) 協力

国際観光振興機構 (JNTO)

## 5. 会議の母体機関とその概要

和文名称: 国際質量分析協会

英文名称: International Mass Spectrometry Foundation

略称: IMSF

ウェブサイト: <http://www.imss.nl/>

沿革: 1958 年ロンドンにて第1回国際質量分析会議 International Mass Spectrometry Conference が開催され、その後3年ごとに同会議が開催されていたが、1997年にその開催母体組織として33の加盟国により国際質量分析協会 International Mass Spectrometry Society が設立された。その後、2004年にNPO法人として International Mass Spectrometry Foundation に改称して、現在に至る。

目的: 質量分析に関する知識を増やし普及させることで、質量分析の科学と実用を世界中で進める。このことを達成するために次のことを行う。1. 質量分析に関する会議とワークショップを様々な国で開催する。2. 質量分析に関する教育を改善する。3. 質量分析に関する用語を標準化し出版を進める。4. これらの目的を達成するためにあらゆることを行う。

The purpose of the IMSF is to advance the science and practice of mass spectrometry worldwide by the promotion and dissemination of knowledge. To this end, the aims of the IMSF are:

to organize conferences and workshops in diverse countries in the field of mass spectrometry

to improve education in the field of mass spectrometry

to standardise terminology and to further publications in the field of mass spectrometry

to do all things that are, directly or indirectly, generally incidental to, or conducive to the attainment of these objects

会員国(地域):

オーストリア、ベルギー、クロアチア、チェコ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、英国、ウクライナ、オーストラリア、ブラジル、カナダ、インド、イスラエル、日本、韓国、ニュージーランド、中国、シンガポール、南アフリカ、米国および、香港、台湾

## 6. 主催団体の概要

(1) 日本質量分析学会

和文名称: 日本質量分析学会

英文名称: The Mass Spectrometry Society of Japan

略称:	MSSJ
ウェブサイト:	<a href="http://www.mssj.jp/index-jp.html">http://www.mssj.jp/index-jp.html</a>
沿革:	本学会は、1953年(昭和28年)4月25日、「質量分析研究会」として設立された。1962年に「質量分析学会」と改称し、さらに1968年に現在の名称である「日本質量分析学会」と変更し、現在に至っている。
目的:	質量分析の原理とその応用の研究を促進し、あわせて質量分析技術の進歩発達および普及を図ることを目的とする。
会員数:	正会員1,088人、学生会員59人、名誉会員20人、永年会員37人、賛助会員76団体(2011年3月31日現在)

## (2) 日本学術会議

和文名称:	日本学術会議
英文名称:	Science Council of Japan
ウェブサイト:	<a href="http://www.scj.go.jp/index.html">http://www.scj.go.jp/index.html</a>

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。職務は、以下の2つです。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約84万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われています。

## 7. 会議の目的

我が国及び世界の質量分析学の発展に寄与し、地球規模の課題に対するまさにグローバルな視点に立った分析・計測面での貢献についてその成果と今後の方向を議論することで、現代および将来にわたる人類の健康・幸福と社会の発展に寄与する。

## 8. 会議の意義

国際質量分析会議は、1958年に始まり、質量分析分野において最も歴史のある国際会議です。今回の日本での開催は、アジア地域では初めての開催であることから、わが国のみならずアジア各国の期待は極めて高くなっています。実際、開催招致活動において、まずアジア各国の質量分析学会設立を支援し、アジア諸国との連絡を密にすることで絶大な支援を得て欧州3ヶ国に競り勝つことができました。質量分析の世界においては、半世紀前の東京オリンピックと同じく国際質量分析会議が真にグローバルなものであることを証明するエポックメイキングな会議となると考えています。

質量分析は、2002年の田中耕一によるノーベル化学賞受賞によって広く日本国民に知られるところとなった学術分野です。質量分析分野におけるノーベル賞受賞者は田中と米国 John B Fenn のみであり、Fenn氏は逝去されたことから、ノーベル賞受賞者は田中(組織委員)のみが出席することになりますが、

他に、田中氏らのノーベル賞受賞までの学術基盤を作った有力な研究者の出席が予定されています。質量分析学は物理から医学までを包含し、異分野融合によって成り立つ典型的な学際分野であり、特に近年のプロテオミクスやメタボロミクス研究等が質量分析の開発に依存するところは極めて大きく、また、地球環境モニタリングにおいても中心的な役割を果たしています。そのような実用の背後で、我が国における質量分析研究がイオン化、イオン解離、質量分離、検出のいずれの要素についても世界をリードするイノベーションを生み出し続けています。従って、これまでの会議がそうであったように、今回の会議も化学の中の分析化学という狭い分野の学術集会ではなく、広い学術領域にわたる知識交換の場であり、地球環境への意識の高まりという世界情勢の中で、その基盤的科学技術である質量分析に関する国際的な学術集会の開催はこれまで以上に大きな意義をもつと考えています。

## 9. 会議の構成

### (1) テーマ・主要題目

メインテーマ： 「21世紀のグローバルな課題を解決する質量分析学」  
 主要題目： 気相化学(イオン化、解離)、質量分離科学、粒子検出計測科学、応用研究(環境、メタボローム、プロテオーム、医療、薬剤)、データベース構築とインフォマティクス 等

### (2) プログラム・セッション

開会式、総会、プレナリーセッション、ポスターセッション、展示、チュートリアルコース、市民公開講座、学術会議連携プログラム、トムソンメダル等受賞講演 等

### (3) 開催プログラム

会議日程	午 前	午 後	夜
9月15日(土)	ショートコース	市民公開講座、ショートコース	
9月16日(日)	ショートコース	チュートリアルレクチャー1, 2、プレナリーレクチャー1、開会式	ミキサー
9月17日(月)	プレナリーレクチャー2、パラレルセッション、ポスターセッション	パラレルセッション、ポスターセッション	ワークショップ
9月18日(火)	プレナリーレクチャー3、パラレルセッション、ポスターセッション	パラレルセッション、ポスターセッション	ワークショップ
9月19日(水)	総会(トムソンメダル等各賞講演)、パラレルセッション、ポスターセッション	学術会議連携プログラム、パラレルセッション、ポスターセッション	ワークショップ
9月20日(木)	プレナリーレクチャー4、パラレルセッション、ポスターセッション	パラレルセッション、ポスターセッション	バンケット

9月21日(金)	プレナリーレクチャー5、パ ラレルセッション	クロージingleクチャー6、閉会式	
----------	---------------------------	--------------------	--

(4) 会議使用言語

英語(同時通訳:無し)

(5) 会議プロシーディングス

抄録集(ネットで公開するとともに abstract book および CD を registration desk にて配布)、プロシーディングスは 2013 年春にキーノート講演を中心に編纂し、国際誌の特別号として出版する。

(6) 企業展示

数十社の展示ブースを開設する。

## 10. 参加数と参加国

参加予定者: 国内参加者 1,000 人、海外参加者 1,000 人 計 2,000 人  
別に同伴者 150 人

参加国: IMSF 加盟国を中心に約 40 カ国を予定

## 11. 過去開催状況

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人 参加者数
1958 年(第 1 回)	英国(ロンドン)	5カ国	100	0
2000 年(第 15 回)	スペイン(バルセロナ)	30 カ国	1200	50
2003 年(第 16 回)	英国(エジンバラ)	35 カ国	1429	50
2006 年(第 17 回)	チェコ(プラハ)	41 カ国	1700	60
2009 年(第 18 回)	ドイツ(ブレーメン)	45 カ国	2622	82

## 12. 組織

(1) 第 19 回国際質量分析会議組織委員会

委員長・議長: 和田 芳直 <渉外委員長兼務>  
(大阪府立母子保健総合医療センター・研究所長)

副委員長・共同議長: 田中 耕一  
(株式会社島津製作所フェロー 田中最先端研究所 所長)

委員:  
高尾 敏文 <プログラム委員長>  
(大阪大学蛋白質研究所教授)  
豊田 岐聡 <総務委員長 兼 広報委員長>  
(大阪大学理学研究科准教授)  
中村 健道 <財務委員長>  
(独立行政法人 理化学研究所)

高山 光男 <募金委員長>  
 (横浜市立大学生命ナノシステム化学研究科教授)  
 山岡 寛史 <ソーシャル委員長>  
 (大阪府立大学高等教育推進機構教授)  
 古澤 一雄 <ソーシャル担当>  
 溝奥 康夫 <渉外担当>  
 (株式会社 住化分析センター)  
 顧問: 荒川隆一 (関西大学教授、日本質量分析学会会長)  
 上野 民夫 (京都大学名誉教授)  
 大橋 守 (電気通信大学名誉教授)  
 交久瀬 五雄 (大阪大学名誉教授)  
 高岡 宣雄 (九州大学名誉教授)  
 土屋 正彦 (横浜国立大学名誉教授)  
 中川 有造 (元 IMSF 運営委員)  
 中田 尚男 (愛知教育大学名誉教授)  
 山脇 道夫 (東京大学名誉教授)

### 13. 事務局、問合せ先

第19回国際質量分析会議 事務局

〒541-0047 大阪府中央区淡路町 3-6-13 コングレビル内

TEL:06-6229-2555, FAX:06-6229-2556 / Mail:imsc2012@congre.co.jp

### 14. 所要経費の概算

単位:円

収入の部		支出の部	
1. 自己負担金(参加登録費等)	72,550,000	1. 会議準備費	30,933,000
2. 諸収入等(展示会等)	10,000,000	2. 会議運営費	54,306,000
3. 補助金/助成金等	13,000,000	3. 展示会運営費	10,000,000
4. 募金予定額	13,450,000	4. 募金経費	1,180,000
		5. 事後処理費	6,281,000
		6. 予備費	6,300,000
収入合計	109,000,000	支出合計	109,000,000